



からしだねの由来 マタイ 13章 31節、マルコ 4章 30節、ルカ 13章 18節

ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

発行・カトリック水巻教会
編集・広報委員会
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
〒807-0025
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
第417号

「ヨセフは正しい人であった」(マタイ 1・19)

フランシスコ・アシジ 谷口尚志

明けましておめでとうございます。それぞれの場、それぞれの決意をもって降誕祭を迎えたわたしたちが、今年もインマヌエルである方(イザヤ 7・14 参照)と共に過ごし、聖家族に倣いながら神ご自身を証する者として生きることが出来ますように。

私事です。毎月、水巻聖母幼稚園とマリア子どもの家の先生方への宗教の時間を担当させていただいています。どうしても分かりにくい表現だったり、宗教的な表現を使ったりすることがあるため、先生方には申しわけなく感じる時もあるのですが、いつも熱心に聞いて下さる先生方に元気づけられています。その宗教の時間なのですが、昨年12月の回は待降節ということもあり、あまり注目されないと言っても過言ではない「ヨセフ」に注目することにしました。福音書のなかで唯一、マタイによる福音書にはマリアへのお告げではなくヨセフへのお告げの場面があり、彼がイエス様の誕生において果たした役割の大きさが分かるからです。以下、その宗教の時間で話した内容の要約です。

1、「マタイによる福音書」の意図。

・マタイは天地創造以来、失った神と人とのつながりを回復させるために神が直接人類の中から選ばれたイスラエルの民(ユダヤ人)の歴史そのものを重要視しており、そのため、イエス様をイスラエルの民の先祖であるアブラハムからの直系、しかも、唯一、イスラエルの歴史の中で統一王朝を築いたダビデの子孫であることを証明するために、イエス様へとつながる系図を冒頭に置いている(1章の前半を参照)。

・以上のような意図から、ヨセフがその血統であるということに基づき、彼の子であるイエス様こそが“イスラエルの歴史を継ぐ王であり、救い主である”ということを伝えている。マタイにとって、マリアのことよりもヨセフを通してイエスが誕生する事実を伝える方が、福音書の読み手(まず第一にイスラエルの民)にとってイエスが王として世界を救うために来られた方であると受け入れられるだろうと考えたと思われる。

2、「マタイによる福音書」本文より。

●1章 18節 ⇒「聖霊によって身ごもっていることが明らかとなった」。

・マリアとヨセフとの間でマリアに対するお告げの内容が共有されていた。つまり、この時点で既にマリアはガブリエルからお告げを受け、そのことをヨセフに伝えていたということ。告げられた神の計画を信じるマリアと、

| | |
|-------------------------|------|
| 旅の話(12)・・・・・・・・・・・・・・・・ | 3面 |
| 図書室だより・・・・・・・・・・・・・・・・ | 4・5面 |
| こころの会より・・・・・・・・・・・・・・・・ | 5面 |
| 幼稚園から・・・・・・・・・・・・・・・・ | 6面 |
| 委員会等報告・・・・・・・・・・・・・・・・ | 7・8面 |
| お知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 8面 |

そのマリアの言葉を信じるヨセフの姿を思い起こすとき、二人が信仰深く神を信頼し、お互いを信じ、理解しあっていたことが伝わってくる。

●1章 19節 ⇒「夫ヨセフは正しい人であったため・・・ひそかに縁を切ろうと決心した」。

・「縁を切ろうと決心した」とあることから、ヨセフは覚悟を決めるよう迫られていたことが分かる。その覚悟とは、婚約していたマリアと自分の子ではなく、神さまの計画によって授かった子なので、マリアとその子のために婚約自体を破棄しなければならないということ。婚約を破棄すれば神の計画の邪魔をすることもないし、夫婦の関係も破棄され、神の計画を信じるマリア自身を支えることにもなる。マリアだけでなく、ヨセフも聖霊によって身ごもっていることをマリア自身の言葉によって信じていたので、神の前にあって「正しい人」と呼ばれている。自分の計画よりも、マリアのことを考え、神の計画の実現のために身を引こうと決心したのです。

●1章 20節 ⇒「このように考えていると・・・宿ったのである」。

・ヨセフの決心は揺るがないものだったが、彼の夢に天使が現れ、マリアの言葉どおり、聖霊によって宿った子どもなので恐れずに彼女を迎えるように告げられる(ヨセフがマリアの夫となることも神の計画だった)。「ダビデの子ヨセフ」とあるように、明らかにヨセフがイスラエルの王の血を引く者であることが示されている。

●1章 21節 ⇒「マリアは男の子を生む・・・救うからである」。

・ルカによる福音書では天使はマリアに指示しているが、ここではヨセフに「イエス」と名付けるように指示しています。「イエス」とは“主が救う”という意味で、ヘブライ語では「ヨシュア」。これがギリシャ語化したのが「イエス」。

・「罪から救うからである」とあることから、イエス様が何をするために来られるかが明確。罪、すなわち、神と人、人と人、人と神さまから創られた被造物すべてとが分断されて、天地創造の際に与えられた命を失った状態を取り戻すためである(「命を失った状態」、これがすべての命ある者にとって逃れることのできない“死”である)。この命を取り戻すための手段をキリスト教では“和解”という言葉で示し、この“和解”を通して失われた命を得ることを“復活”という。キリスト教徒にとって<救い>とは、神ご自身がイエスを世に遣わして人類の傍に来て下さり、人類と“和解”することによって実現するもの。人類のために神が主体となって、その神の思いに応えることによって実現する。神は人類に自分の計画を知って欲しいということだけを思っているのである。「キリストに代わってお願いします。神と和解させていただきなさい。」(使徒パウロのコリントの教会への第2の手紙 5章 20節)

●1章 22節～23節 ⇒「このすべてのこと・・・という意味である」。

・「神は我々と共におられるという意味である」とあるように、天使は人類を救うために神が共にいて下さるというメッセージが昔の預言者に託されていることを告げた(イザヤの預言書 7章 14節参照)。イエスが誕生することがまさにそのしるしであることを強調しているのである。

この一年、わたしたちがヨセフの人物像に触れることで神と人と被造物の前にあって正しく、相応しい存在へと成長していきますように。

旅の話 (12)

岩本光弘

外国籍の人たちのお世話をするようになって5年が過ぎたころ、福岡で外国籍住民の支援活動をしている人たちの全国大会が開かれることになりました。会場は大名町教会でした。

1996年4月末に二日間の日程で開催されましたが、私は北九州からの実行委員として参加しました。この大会には全国から400人以上の人が参加したのにはびっくりしました。

その年の夏に東京の支援団体からペルーに調査に行く話が来ました。最初に福岡に話があったのですが、九州から最低二人は行って欲しいということらしく、私に行って欲しいと要請が来ました。私は興味がなかったのですが、そのころ北九州のスペイン語ミサに来ていた石崎さんが帰国することになっていて、この話をするとう石崎さんが帰国したらリマ市にいたのでぜひ来ませんかと誘われましたので、行くことにしました。石崎さんは八幡西区で従兄が経営している豆腐屋さんで働いていて、疲れたので一回帰ると言うことでした。

一緒に行ったのは大名町教会の佐田さんでした。飛行機の切符から通訳まで佐田さんに全部任せて、佐田さんの後について2日かけてロスアンゼルス経由でリマに行きました。

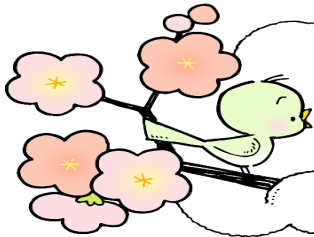
リマ空港について外に出ると外の柵の周りにたくさんの方が群がっていてどうしようかと思いましたが、群衆の中から「岩本さん」という声が聞こえたので空耳かと思いながら見ると石崎さんが手を振っていました。佐田さんとはここで一旦別れ私は石崎さんに付いていくことになりました。空港には石崎さんの家族たちが私を出迎えに来てくれていました。

リマに着いたのは12月23日でした。通りの家にはたくさんの国旗が出ていたので、何かお祝いなのかと聞くと、リマの日本大使館がゲリラに占拠されたので、皆さんがゲリラに反対と言う意味で国旗を掲げているということでした。出発前にゲリラ事件がここで起きたのを思い出しました。この占拠された日本大使館へは正月の食事会の後に、石崎さんの妹の夫で政府職員の樋口さんに連れて行ってもらいました。大使館の通りにバリケードがあってそこに日本のテレビ各局の人たちが沢山座っていましたが、周りの住宅街は何があったのかと言うように静かで、親子で散歩している人もいてびっくりしました。

石崎さんが滞在しているのは妹の家でした。到着してびっくりしたのは、鍵を何個も明けないと家に入れないことでした。家がある町内は高い鉄条網で囲われていて、入り口の鍵を開けて町内に入ります。それから家に入るためには三個の鍵を開けてやっと室内に入れるのです。家の窓には全部鉄の枠が入っていて、それほど治安が悪いのかとびっくりでした。

家に落ち着くと、近所にすごいクリスマスの飾りをしている家があるので見に行きませんかと言われて行きました。その家には一部屋を全部使って馬小屋を作っていました。帰るまでにこのように飾りをしているところを何か所か見に行きました。

24日の夜には石崎さんの姉妹の家族がたくさん集まりました。日本語ができる人も何人かいて楽しいホームパーティーでした。その後近くの教会のクリスマスミサに出かけました。



図書室便り

ひかりの子

矢田 公美

ははきぎほうせい

帚木蓬生『守教』〈上巻〉

水巻教会図書の文庫本「守教」上・下巻の関連地図にカトリック今村教会が表示されています。以前水巻教会におられた竹森神父様が赴任しておられます。

上巻では、フランシスコ・ザビエル（1549年来日）の宣教を引き継いだ宣教師たち、アルメイダ修道士らによって、イエズス教が豊前、豊後、筑前（博多）、筑後、肥前、肥後までに広がっていく様子が描かれている。アルメイダは、ポルトガル人で、もとは外科医、その後交易商人としてインドのゴアなどで活動するうち、ザビエルに出会い入信する。商船で来日し鹿児島を経て府内に来ると、捨て子を見て、自分の蓄えた資財を使い、孤児院を作って、孤児や病人の世話をするミゼリコルディア（いつくしみ、慈愛）の奉仕をする職のない貧しい者の場を作る。

^{ぶんごらなのおおともぞうりん}豊後府内大友宗麟の^{いちまたうまのすけ}家臣一万田右馬助は、戦で負った鉄砲傷で足が不自由ながら、アルメイダ修道士の求めに応じて、大殿の領内で用地の斡旋などを担当する。右馬助と妻の麻には子供がなかった。孤児を養子にすることを進められて引き取り、アルメイダにちなんで、米助と名付ける。^{よねすけ}米助は元服を期に大殿（^{くめぞう}大友宗麟）より平田久米蔵という名をいただく。

右馬助は、武家ながら、大殿から後継者を亡くした筑後領高橋村の大庄屋に任命される。久米蔵と麻ともども府内から高橋村に移り住む。大庄屋は、十六カ村の庄屋を束ね、年貢の取りまとめなど地域の運営に携わる。

数年後、高橋村を訪れたアルメイダ修道士は、村人に語りかける。「貧しい者や病める者、小さきものにすることは、全てデウス・イエズスにすることです」「富やお金は私たちが豊かにしません」「この世にあるものすべては、デウス・イエズス様の贈り物です。それは自分のために取っておくものではありません。わかち



あうためのいただきものです」「死は人生の続きです。体をデウス・イエズスにお返しするだけのことです。心と魂は生き続けて、死にません」「祈りはよろこびです。すべては祈りから始まります」

高橋組の村々では洗礼を受けて教名を授かる者がつづき、右馬助一家も、それぞれフランシスコ、カテリナ、トマスの洗礼名を授かる。村では、新しい暦、日繰りが取り入れられ、その暦に従って祭りをを行い、七日ごとに巡ってくる「ドミンゴ」には農作業をやめて休息をとる。ドミンゴの休息日は、村人たちに歓迎された。田畑に出向くのをやめ、一家が集まって、

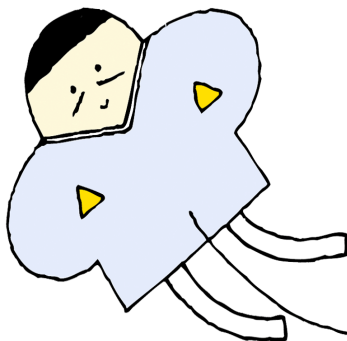
布や木を削ったロザリオを繰って、コンタツをとなえ、祈りを捧げる。

成長した久米蔵は、村人の求めに応じて使徒信経、主の祈り、アベマリアの祈り、栄唱を伝える。信者のいるところを、パードレ（神父）、イルマン（修道士）が同宿や通詞を伴って定期的に訪問した。アルメイダ修道士はザビエルをヌンシオ（法王大使）ザビエル様いう。

久米蔵は、宣教師たちに付いて秋月や博多に行き見聞を広め、秋月の商家の娘クララとよと出会う。博多からやってきたモウラ神父の司式で二人は婚姻、やがて嫡子音蔵、道蔵、娘りせをさずかる。やがて大庄屋の家督は久米蔵に引き継がれる。イエズス教が盛んになるとローマのイエズス会総長から派遣された日本巡察師ヴァリアーノ神父が来日し、口之津で会議が開かれ、セミナリオ、ノビシアド、コレジオなど日本人神父養成のため教育施設設立を決めた。ヴァリアーノ神父はフロイス神父を伴ってみやこに上り織田信長に謁見、豪華な安土城と城下を描いた屏風が土産として贈られた。

その後、信長は明智光秀の謀反により自害する。ヴァリアーノ神父は4人の少年使節を伴ってマカオ、ゴア経由でローマに派遣する。信長はイエズス教に好意的だったが、関白となった豊臣秀吉は、バテレン追放令を發布し、宣教師たちの活動は制限される。教会堂やノビシアドなどが破壊され、イエズス教は、潜伏期に入る。長崎西坂で26人の宣教師・信徒が見せ締めとして殉教。しかし、関白秀吉の2度にわたる禁教令にもかかわらず、領主の対応により秋月の教会には神父が日本人通詞の修道士と巡回訪問し、高橋村の信者たちの心に信仰が生き続けた。

(次回へ続く)



1・2月 こころの会

テーマ「母なる神への旅」

遠藤周作「沈黙」から50年。中学生時代に洗礼を受けた周作のキリスト教徒としての生き方、信仰の在り方を問う。



水巻聖母幼稚園 マリア子どもの家 1月のお知らせ

いつも皆様のお祈りとお支えいただき感謝申し上げます。

<水巻聖母幼稚園>

先日は子どもたちが楽しみにしていた、クリスマス生活発表会を行いました。自分でなりたい役を選び、毎日練習を頑張りました。保護者が見守る中、緊張していましたが、堂々とセリフを言ったり、踊ったりしている姿は、自信に溢れていました。

発表会後に行われた園児観覧では、年長児は、年下のお友達に聖劇を通して、イエス様のご誕生を教えてくれ、また憧れを、プレゼントしてくれました。発表会を通して、イエス様のお祝いをすることができ、とても良かったです。



水巻聖母幼稚園 TEL : 093 201 9559

e-mail : ContactUs@mizumakiseibo.ed.jp

<マリア子どもの家>



『待降節の集い』には、神父様が4本のろうそくを持ってきて、待降節についてお話をして下さいました。「イエス様が来たのは、私達の近くに神様はいますよと伝えるためです。神様のお手伝いをすることが、一番クリスマスを迎える時に大事なことです。神様が近くに行き、お友達を助けましょう。」というお話しでした。その後、みんなでクリスマスツリーの飾りつけをしました。



マリア子どもの家の庭のキンカンを、「黄色いのはどれかな?」と探しながら、一人ずつ千切りました。そして、輪切りにして、朝のおやつで頂きました。甘くなっていました!

TEL : 050 5212 7759

HP : 水巻町マリア子どもの家
水巻聖母幼稚園・マリア子どもの家
園長 水口 由美
教職員 一同

委員会等報告

2022年12月分

12月度小教区委員会 12月4日

1. 行事予定

- ・1月 1日(日) 神の母聖マリア
ミサ 10時～成人の祝い・車の祝別
- ・1月 8日(日) ミサ後～馬小屋、Xmas
イルミネーション等の片づけ。
- ・1月15日(日) 小教区委員会

2. 議題

(1) 各委員会報告

①広報委員会

・導入予定の印刷機はリコー製のものとす。総務を通して紹介を受けた馬込氏へ連絡し、手続きを進める。

②典礼委員会

- ・12月11日(日)に典礼委員会を行う。
- ・新しいミサ式次第へ移行したことを受け、クリスマスのミサ用のしおりを松尾隆氏の厚意により作成していただけることとなった。なお、共同祈願の作成と担当は役員会、レプトン会、ふれあい会、子どもたち、ベトナムの青年たちに依頼することとなっている。
- ・ミサの奉納の際の担当者(3名)は地区ごとに回す(地区委員から声掛けをする)。なお、献金はミサ前に献金箱から奉納用の容器に移すことも担当者が行う。

③営繕委員会

- ・信徒会館、洗面所、外回りの電灯をLED化した。130,000円ほどかかる見通し。
- ・現在、平日の時間を使って一部の方が信徒会館内の備品の整理や清掃をして下さっている。感謝を忘れずに。

④納骨堂委員会

・カーテンを新しいものに替え、納骨堂内が明るくすることができた。

⑤冠婚葬祭の会

・冠婚葬祭のための司会者やオルガン奏者については「からしだね」に載せて呼びかけているので、引き続き、個人的にも声かけをお願いしたい。

⑥総務

・12月24日(日)にはふれあい会が中心となって200人分のちらし寿司を準備する。来年、2月24日(日)に抱樸支援のための炊き出しを予定している。炊き出しや作業の時間を効率化させるためにもガス栓の増設を希望し、工事を行うこととした。

(2) 12/11(日)の街頭募金活動について

・場所はマックスバリュ水巻店(ミサ後～12時半頃まで。店長の厚意により活動許可を得ている)。先日、幼稚園のバザーにて保護者会の皆さんが作成して下さった教会の案内板を携行することに加え、クリスマスのミサの案内、募金先や募金の意図を明確に記載したチラシ(100部)を配布する(日本赤十字社による「NHK海外助けあい」支援)。なお、場所は店舗入り口の2カ所(ミサ後に呼びかけ、2グループに分けて小教区委員が引率する)。また、聖堂入口にて子どもたちに呼びかけてもらい、足を運ばない信徒に向けて募金の協力をお願いする。

・引率者は赤石、岩本、山口、松尾(恵)、大

原。合流できる子どもたちは聖堂前での呼びかけを終えたら向かう。なお、持参する物は献金箱2つ、教会の案内板、のぼり旗3本、法被。

(3) 小教区委員会規約(改訂版)作成のための準備委員会について

・準備委員会の立ち上げに向けての準備について。推薦した6名の方の了解を得た(吉田英美氏、対馬須美江氏、常定基子氏、宗恵氏、アブドゥハン恭子氏、田中拓氏)。第1回目の準備委員会を1/15、22、29のどこかで行うよう上川が調整する。

(4)、2023年度予算案の準備について

・祭儀行事費の来年度予算をコロナ禍前の650,000円としたい。また、諸委員会における来年度予算案の提出もあわせてお願いしたい。

(5) 地区集会における議題について

・「信仰の分かち合いについて」、「訪問希望先の巡礼地について」、「高齢によって、また交通手段がなくて教会に来ることができない状況をどうするかについて」、「地区委員を引き受ける人がいない状況をどうするかについて」などが提案された。なお、「高齢によって教会に来ることができない状況をどうするかについて」は、ただ単純に誰かが送迎をすればいいという問題ではないので、今一度、主任司祭がご聖体を持って個人を訪問する意義を確認するために、今回の地区集会には主任司祭も参加して相互理解を深めたいと思う。なお、地区集会は4グループに分けて教会にて行うこととする。

(6)、その他

・図書係より、〈黙想の家〉より所蔵図書のいくらかを譲り受ける運びとなったので、訪問日を調整して訪ねたい。



★元旦ミサ(神の聖母マリアミサ)★

日時：1月1日(日) 午前10時～
車の祝別があります。

普段のミサ後と同じような、ふれあい会の方々による茶話会があります。

★馬小屋・イルミネーションの片付★

日時：1月8日(日) ミサ後

ミサ後に馬小屋やクリスマスイルミネーションの片付をします。手伝いができる方はよろしくお願ひします。

★特別献金★

12月4日 宣教地召命促進の日献金
18,036円

ご協力ありがとうございました。

★街頭募金★

12月11日 街頭募金
教会内の献金 69,551円
マックスバリュ 14,203円
合計 83,754円

12月14日に、日本赤十字社NHK海外たすけあい支援に送金しました。